

債券・為替 ウィークリーレポート



カナダ



ブラジル



メキシコ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー


















南アフリカ



インドネシア


















インド

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		12/15 （12/8との比較）	12/15 （12/8との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
カナダ 	AAA	1.84% （▲0.02）	87.54円 （▲0.89%）	+3.0% 2017年3Q	1.00%	ポロズ総裁の講演での発言がタカ派と受け止められ、カナダドルは一時上昇したものの、新築住宅価格指数や製造業売上高などの経済指標が市場予想を下回ったため、カナダドルは下落。国債利回りは小幅低下。	CPIや小売売上高などの発表を予定。市場では前回よりも高いと予想。米国の財政・金融政策や原油価格の動向などに注意しつつも、引き続き国債利回りはレンジ内での推移となるとみられる。
	Aaa	 金利上昇	 金利上昇	 景気拡大	 利上げ局面		
ブラジル 	BB	9.60% （+0.07）	34.18円 （▲0.85%）	+1.4% 2017年3Q	7.00%	小売売上高は市場予想を下回る結果。議事要旨では、今後の追加利下げに慎重な姿勢を示唆。年金改革の採決が来年にずれ込む可能性についてテメル大統領が言及したことを受け、レアルは対円で下落。国債利回りは上昇。	経常収支などの発表を予定。国民に不人気な年金改革採決への投票が来年度にずれ込めば、大統領選挙や議会選挙の日程に近づくことになり、法案が承認される可能性が低下しやすく、レアルの上値は重い展開を想定。
	Ba2	 金利低下	 金利低下	 景気回復	 利下げ局面		
メキシコ 	A	7.45% （+0.26）	5.89円 （▲1.74%）	+1.5% 2017年3Q	7.25%	中銀は政策金利の引き上げを決定。声明で、インフレ加速への懸念を示したものの、来年末には収束するとの見解を示唆。鉱工業生産や製造業生産が市場予想を下回ったことを受け、国債利回りは上昇。ペソは対円で下落。	小売売上高などの発表を予定。高金利がペソをサポートしているものの、NAFTA（北米自由貿易協定）の離脱可能性や2018年に迫る大統領選挙を前に、ペソは神経質な展開を予想。
	A3	 金利上昇	 金利低下	 景気安定	 利上げ局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 国債利回りを表示（カナダ：10年、ブラジル：4年、メキシコ：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。
- ※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、ブラジル：Selicレート、メキシコ：翌日物金利を表示。
















※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		12/15 （12/8との比較）	12/15 （12/8との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
オーストラリア 	AAA	2.52% （▲0.01）	86.10円 （+1.05%）	+2.8% 2017年3Q	1.50%	企業景況感は前回よりも低下したものの、長期平均の水準を上回る結果。良好な雇用統計や豪企業の大型買収案件の報道を受け、豪ドルは対円で上昇。国債利回りは小幅低下。	豪州中間財政予算見通しや中銀の議事要旨などの発表を予定。雇用統計が堅調な一方、賃金上昇率の伸び悩みが懸念材料。また、豪ドルの上昇を受けて、利益確定の売りが出やすく、上値が重い展開を予想。
	Aaa	 金利上昇		 景気安定	 利上げ局面		
ニュージーランド 	AA+	2.72% （▲0.07）	78.76円 （+1.38%）	+2.5% 2017年2Q	1.75%	製造業PMIは前月分を上回る結果。空席だった中銀の総裁に元副総裁が指名され、3月に就任する運びに。中銀の政策運営を巡る不透明感の後退を背景に、ニュージーランドドルは対円で上昇。国債利回りは低下。	サービス業指数や消費者信頼感指数、貿易収支、GDP（国内総生産）などの発表を予定。2018年に利上げが実施されるとの見方が広がっているが、景気が堅調な状態を維持するかは今後の経済指標の見極めが必要。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 据え置き局面		
ノルウェー 	AAA	1.50% （+0.02）	13.43円 （▲1.81%）	+3.2% 2017年3Q	0.50%	中銀は政策金利の据え置きを決定。政策金利見通しで、2018年後半の利上げの可能性を示唆。インフレ率は航空運賃の一時的な要因で下振れ。国債利回りは小幅上昇。ノルウェークローネは対円で下落。	景気拡大ペースは依然緩やかであり、利上げの可能性を市場が強く意識するためには、経済指標全般に加速感が見られる必要がある。主な経済指標の発表の予定はなく、金融市場も安定した動きとなる見込み。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 利上げ局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。
- ※政策金利については、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		12/15 (12/8との比較) 今後の見通し (※4)	12/15 (12/8との比較) 今後の見通し (※5)	前年比 (※3) 景気の方向性 (※6)	先週末 方向性 (※7)		
南アフリカ 	BB+	8.16% (▲0.21)	8.60円 (+3.34%)	+0.8% 2017年3Q	6.75%	インフレ率は前月より鈍化し、小売売上高は市場予想を下回る結果。16日に与党党首選挙を控えていた中、副大統領が優勢との報道に市場が好感し、ランドは対円で上昇。国債利回りは低下。	財政収支などの発表を予定。長期的には、財政難が同国資産価格の下押し圧力となると予想。短期では、延期された与党党首選挙の結果次第。さまざまな報道が出やすく、引き続き変動の大きい展開を想定。
	Baa3	 金利上昇	 景気鈍化	 利下げ局面			
インドネシア 	BBB-	6.04% (▲0.04)	0.83円 (▲0.90%)	+5.1% 2017年3Q	4.25%	中銀は政策金利の据え置きを決定し、これまでの金融緩和策が国内景気回復の支援に十分であると指摘。海外投資家の債券売買フローが安定する中、国債利回りは低下。市場の円高傾向を受けて、ルピアは対円で下落。	主な経済指標の発表はなし。マーケット全体のセンチメントや、米国サイドの材料に影響を受けやすい展開が予想される中、ルピアは引き続き底堅く推移する見込み。
	Baa3	 金利低下	 景気拡大	 利下げ局面			
インド 	BBB-	6.97% (+0.04)	1.76円 (▲0.11%)	+6.3% 2017年3Q	6.00%	グジャラード州議会の選挙の出口調査では、与党が勝利と報道されるも影響は限定的。CPIが、市場予想と中銀の中期目標を上回ったことなどを受け、国債利回りは上昇。ルピーは対円で下落。	主な経済指標の発表は無し。選挙結果はすでに市場に織り込まれていると考えられ、債券・為替市場は海外市場の影響を受けやすいものの、安定した国内情勢から底堅い推移を予想。
	Baa2	 金利横ばい	 景気回復	 据え置き局面			

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（南アフリカ：5年、インドネシア：5年、インド：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。

※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

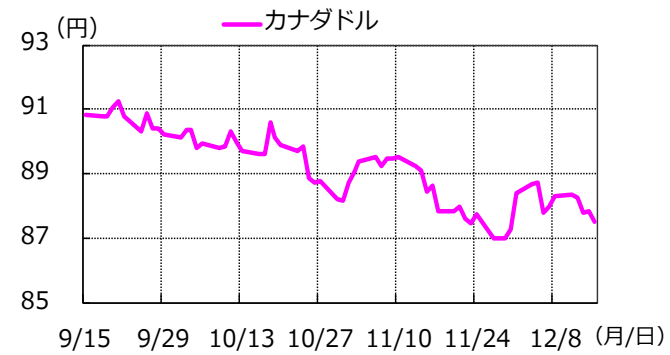
※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。

※政策金利については、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

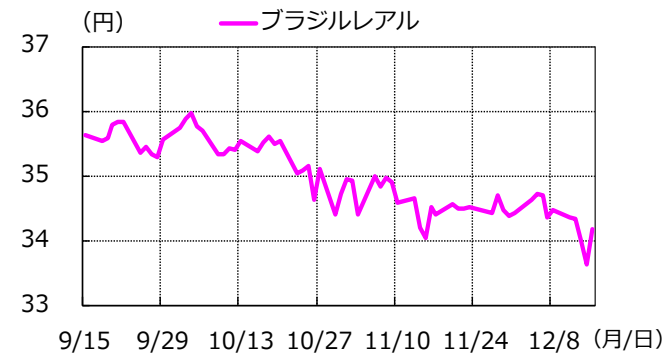
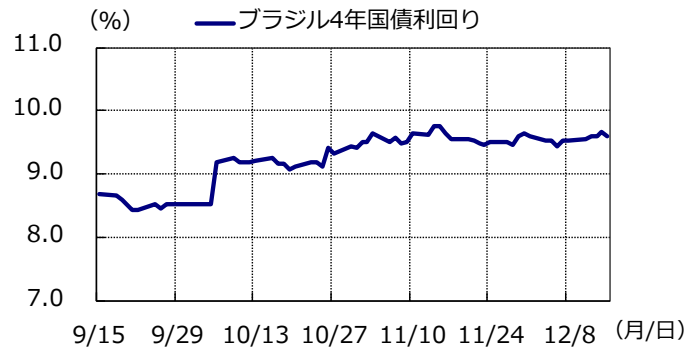
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/9/15～2017/12/15

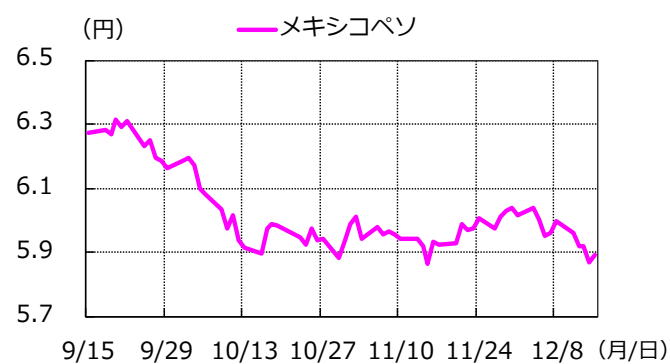
カナダ



ブラジル



メキシコ

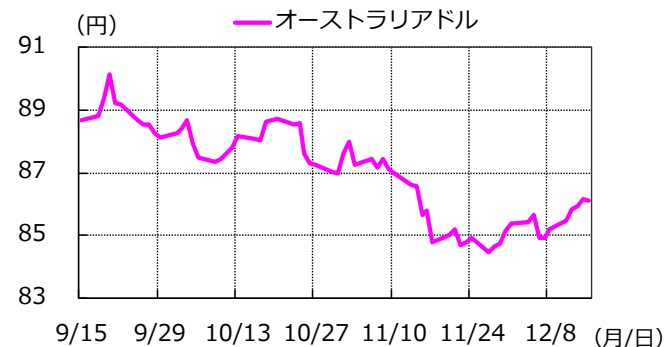


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

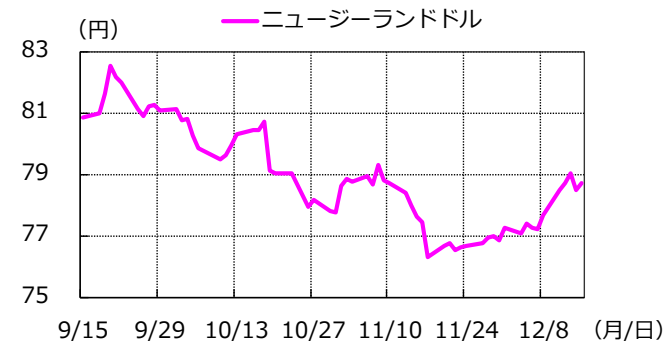
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/9/15～2017/12/15

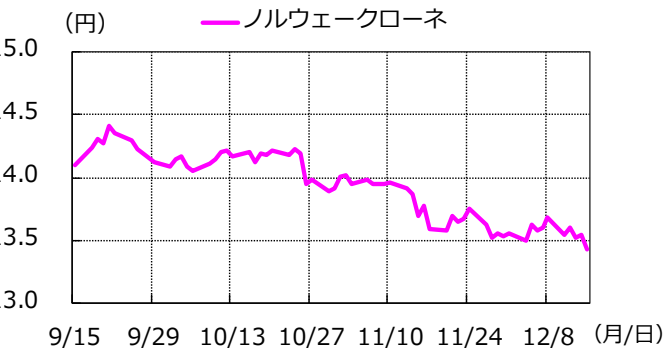
オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー

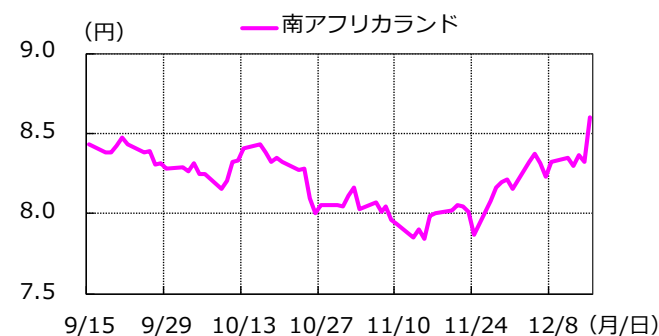


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

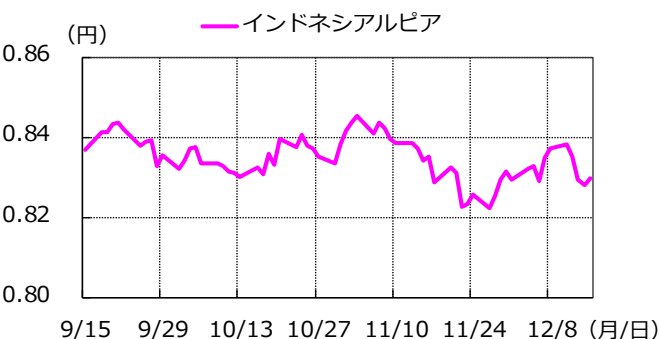
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/9/15～2017/12/15

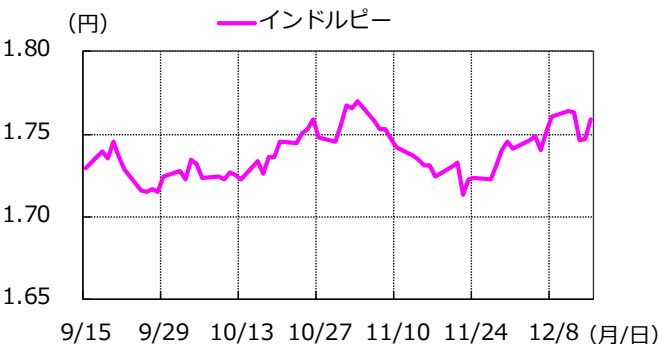
南アフリカ



インドネシア



インド



※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.78%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.6824%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。